

○芸術文化創造センター地域説明会（幸地区） 概要

- 1 日 時：平成 26 年 5 月 29 日（木）
- 2 場 所：市民会館 6 階 第 7 会議室
- 3 説明者：文化部長、文化部副部長、文化政策課長、芸術文化担当課長、芸術文化創造センター整備係長 2 名
- 4 傍聴者：47 名（幸地区 24 名、その他 23 名）
- 5 内 容：小田原市芸術文化創造センターの基本設計と整備について
- 6 質疑応答

市 民：大ホールはエレベーターで 3 階にいけない。このように問題点が多くある中で基本設計が終わったとしていいのか。

芸術文化担当課長：基本設計は終わっているという認識である。

文 化 部 長：整備推進委員会委員からは、エレベーターの件以外の要素についても課題をいただいている。この課題については実施設計において解決されるものと考えている。当然コストにも絡んでくる。建設費等詳細を設計する中で課題もあわせて解決していく。

市 民：いいホールが出来るとワクワクして聞いていたが、新しい施設ができるのと車の流れが増えるのではないか。南側の道路は車椅子でも安全か。道路までやさしい施設づくりをしてほしい。

文 化 部 長：歩車道の分離の確保については努めてまいりたい。

市 民：今回、交通影響調査を行ったとのことだが、廃道に伴い、車と人の流れがどのように変わるのか。どの道路に何台増えるか数字を示してほしい。駐車場はどこから入って、どこに出るのか。

センター整備係長：市道 2197 については、現在 1 日あたり 1,300 台の車両が通行している。昨年度の調査では、この道路がなくなった場合、交通車両の分散によって、周辺の交差点の混雑度について影響がないとの結果である。

センター整備係長：センターの中には一般用の駐車場を設けていない。駐車場は主催者用、スタッフ用の駐車場である。

市 民：一方通行はどちら側か。どのように規制をとるのか。

センター整備係長：国道一号方面からお堀端通りへ向かっての一方通行になる。一方通行が認識できるような位置で規制標識を設置する。具体的には警察との協議の中で定めていく。

市 民：どのように交通を配分させるのか、もとの生活道路が抜け道になるようでは困る。

市 民：歩道 1 m、車道 3 m の道路ではだめだ。6 m ないとだめだ。

市 民：道路は渋滞しないのか。

センター整備係長：交通量調査の結果としてそのように見込むことが可能である。

市 民：交通量調査はいつ行ったのか。競輪や桜まつりの日などに行ったのか。何台だったのかをオープンにしてほしい。車道 3mだと救急車が入らないのではないのか。

センター整備係長：昨年7月25日（木）7時～19時で行っている。特異日には行っていない。生活道路という考えで幅員を考えた。事故については、起きないように対策をとっていききたい。

市 民：これだと事故は起きる。救急車が通らない、大型車が通らないだと困る。

市 民：市道の廃止は議会承認がいるはずだ。廃止を決めてから設計に入るべきではないのか。また設計費を無駄にするのか。

センター整備係長：これからの計画の中で進めていきたいと思っている。市道2197の廃止はこれから議決を頂くため、廃止に向けて手続きを進めている。

文化部長：施設自体の駐車場、周辺の駐車場も含めて、調査の結果、基本的には通常の流れの中で納まると思っている。桜のシーズンや観光イベントなどの時、車両が集中する時に、周辺交通量が過大となる。このようなときには、周辺駐車場への効率的な誘導も踏まえて検討しているところである。周辺道路への配分という部分では、1号線からお堀端通りへの通行が多くなると思うが、南側道路は一方通行にして幅員を絞ることで、通り抜け道路への進入も絞れると考えている。この道路については、センターを計画する際に周辺の地権者の方と協議を進める中で、形状や幅員、一方通行などを決めてきた。手続きはこれからになるが、平成22年度にはこの敷地で行うことを議会に一度説明を行っている。これから、地元へのご説明をし、課題の解決をおこない、警察との打合せを進める中で、手続きについては進めていきたいと思っている。早ければ9月の議会で上程という形になる。我々は、調査の結果、設計者等との議論の中で、先ほど説明のとおり道路を廃止して、大きな支障が出るとは思っていない。しかしながら、皆様方の懸念には一つ一つ答えていきたい。

市 民：芸術文化創造センターができることについては大変期待している。基本設計の中で防災について強調している。中身については何も文句はない。しかし、周りの防災の観点がない。これだけの施設を作るのに、周辺の道路が車道3m歩道1mとはいかがなものか。周辺で建替え、リフォームがあった場合、道路を止めなければならない。仮に道路に車が止まって消防車が入れなかった場合、周辺への防災対策はどうなるのか。この地域全体の防災について検討しているのか。周辺の方だけでなく、もう少し広い範囲で影響が出る。全体の計画はどうなっているのか。

文化部長：消防の部署と協議をしている。消防の関係、救急の関係について、この

- 計画敷地、この道路形態の中で、シミュレーションを行っている。消火活動などは芸術文化創造センター敷地からの消火活動なども考えている。
- 市 民：説明をしてから進めるべきだ。基本設計の段階でシミュレーションをして、公開をして住民に説明してできるかどうか担保すべきである。
- 文 化 部 長：今の見込みでは、それが説明できると考えているが、まだその調整が整っていないので整った時点でご説明する。
- 市 民：実施設計の前にやるのか。
- 文 化 部 長：実施設計を進める中でご説明したいと思っている。
- 市 民：箱根口と御幸の浜の交差点は、危険度レベル4のはずである。一方通行になった場合、消防車はどのように宮小路に行くのか。先日の南町の火事でも、消火栓からの水が出なくて全部焼けてしまった。商店街のことなどを考えた時にOKなのか。宅配便、ゴミ収集車、車を入れないで下さいと申し入れるのか。
- センター整備係長：ごみステーションがある、自治会との相談にもなるのだが、ごみ収集は生活環境の中で大事なことなので対応していきたい。宅配などについても、外に買い物にいけない買い物弱者の方もいらっしゃるの、生活道路を使っていたくことになる。
- 市 民：このような問題が出ている中で、なぜ計画を押し進めるのか。自治会長会議では強く申し入れたはずだ。せっかくいい施設なのに、こんなことでもめてどうするのか。3mで押し通そうというのは横暴である。ここにいる人全員が反対している。賛成の意見がない。イニシャルコストとランニングコストの問題もある。まだ問題が山積している。何も教えてくれない。
- 市 民：十字地区の説明会の日程がわかれば、今日ペンディングになっている部分について、きちんと対応していただきたい。基本的には反対であるが、このホールをきちんとバランスを考えて計画していただければいいと思う。景観の議論、道路の件、予算の件、管理運営の件、いろいろな心配がある、説明をして、納得が得られる状況を作ってもらいたい。少しフライングしているのではという危惧がある。
- 課 長：十字の説明会だが、早くても6月下旬で行いたいと考えている。その後、市民全体の説明会を、7月に行う予定である。
- 市 民：とても急いでいる気がする。29年オープンができないと市にとってなにか不都合があるのか。にぎわいとか交流と言っているが、この施設が出来たときに宮小路やかまぼこ通りに人が流れていくのか。道一つ決まっていない状況で、実施設計はいつ、どこに頼もうとしているのか。このような段階で、実施設計を進めるべきではないと思う。
- 課 長：実施設計についてはまだ契約には至っていない。早々には契約をしたい

と考えている。

- 市 民：あせりすぎているのではないか。
- 市 課 長：決してそのようなことはない。これまで市民の皆さまとの議論に時間をかけてやってきた。
- 市 民：今話してきたことをもしっかり説明できて、初めてあせっていないと言えるのではないか。答えもあいまいになっている。答えられていない。
- 市 民：これだけの問題があつて、これから警察と検討する、協議すると言っている。地域住民も納得していない中でどうやって進めるのか。これだけ問題が出ているので、スケジュールを変更せざるを得ないのではないか。
- 副 部 長：今日皆さんからたくさん意見をいただいた。今後、警察とも相談して、また消防等との問題もでたので、それを踏まえて、これから慎重に検討を進めていきたいと考えている。ご理解いただきたい。
- 市 民：十分に検討して進めるのか、十分に検討して説明するのか。
- 副 部 長：今日答えられていなかった部分は、一度持ち帰って、時期については明言できないが、いずれかの時期にしっかりと答えさせていただきたい。
- 市 民：皆さんが納得しなければ、一旦止めるのか。
- 副 部 長：説明は尽くしてご理解いただくのがスタンスだと思っている。
- 市 民：反論はあるかもしれませんが、計画は進めますよということになる。
- 文 化 部 長：南側の生活道路の整備については、周辺の用地交渉のプロセスの中で、幅員、隅切り、一方通行について協議をしてきた。周辺の住民の方には説明が今日になってしまった。逆に皆様方にお聞きしたいが、この道路を広げるといっているのではないですよ。そこは、いろいろお考えが違うようですが、この道路を拡幅することは極めて難しいと思っている。
- 市 民：緊急災害時のことを考えて道を広げるのが当然でしょう。
- 文 化 部 長：南側の生活道路を現在の市道 2197 の代わりにすると言うつもりもない。そこを基本として考えていただきたい。現在市道 2197 を通っている車両が、南側道路に集中するのではなく、他の道路に振り分けることを行いたい。どのように振り分けるのかを数字でお答えしなければならなかったが、基本的にはこの道路には負荷をかけるつもりはない。平常時では大丈夫だが、観光イベント等があるピーク時には交通の誘導策で対応していきたいと考えている。生活道路の整備については、周辺の地権者とも話をしてきたこともあるので、インフラ移設の着手についてご理解いただきたい。市道 2197 の課題については、お答えしていきたい。いかがか。
- 市 民：今言った言い方だと、反対があつても進めますと聞こえるがどうか。
- 文 化 部 長：進めることと、ご説明することを整理してお答えした。実施設計、生活道路の整備について併せて進めさせていただきたい。ただ、市道の廃止に

については、先ほど仰っていた課題を解決して、再度ご説明する場面を設けて、やらせていただきたい。

市 民：周辺の生活している方は車を通してほしくない。つまり廃止である。居住者以外通行禁止ということでもいいのか。

文 化 部 長：考え方としてはそうである。

市 民：それだと税金の使い方がおかしい。周辺居住者だけの道路なのか。

市 民：周辺で生活している人がそのような使い方でもいいというのであれば、我々は飲むしかない。それを一般市民にきちんと言うべきだ。やってから、住民の人がそうですというのはおかしい。

文 化 部 長：具体的に他の交通を規制できることができるかどうかは別の問題であるが、考え方としてはそのように思っている。我々は市内に協議組織を持って取り組んでいる。ご指摘いただいた部分についてお答えしなければならないところもある。

市 民：市内だけの議論で矮小化させるのはおかしい。

市 民：実施設計を進めるといったが、進める前にしっかり説明すべきだ。

市 民：説明会をもう一度開いてほしい。そのときには、都市部長とか建設部長とか関係している人、それから地域の住民の人とか、関係している人を呼んで、きちんとやるべきだと思う。それから消防も。

副 部 長：十字地区を対象に、来月末位に行う予定である。

市 民：その前に工事を始めるのだろう。

副 部 長：水道などの移設工事とかそういった部分を行う。

市 民：それではありきではないか。

市 民：実施設計までの段取りを説明してから進めるということによいか。

文 化 部 長：急ぎすぎているという意見があるが、我々はこの施設の整備そのものはお待たせしてしまっているという認識である。また、国からの財源との関係もある。それからもう一つは平成 29 年オープンのお約束をしたということもある。この目標で進めたいということは持ち続けている。しかしながら、ご指摘のように課題があることも承知している。この部分については、改めてご理解をしていただく場面をつくらなければならないと認識している。本日答え切れなかった部分については、改めて整理してご説明させていただく機会を設けさせていただきたいと思っている。いかがか。

市 民：多額の税金をかけてこの事業がうまくいかなかったらどうするのか。加藤市長が公約違反をしている。ここに建てることは違反している。

文 化 部 長：小田原駅・小田原城周辺まちづくり検討委員会で、周辺の整備計画を改めてつくった中で、ここに立地を定めてここまで進めてきたものである。

市 民：私はそれに参加したが、市の方からがんじがらめにここでつくるんだと

言われた。加藤市長が市民との約束を違えた中で、今度は行政のほうで私たちの計画の通り進めるからご理解くださいというのはおかしい。

文化部長：芸術文化創造センターの計画は、市民全体にご説明して、さらに議会の中でも予算をご承認いただいている。我々としては、広く市民の方にご賛同いただいていると理解している。

市民：このような道路の問題があるとは知らないはずだ。みなさんが納得しなければならない。安全ないい道路ができて、防災もきちんと計画ができて、施設ができればよい。しかし、どちらか犠牲にする考えである。

市民：十字の説明会、市全体の説明会が終わるまで実施設計はしませんというのはどうか。

文化部長：申し訳ありませんが、それにお答えすることはできない。

市民：決まっていることを説明すると言うことは、説明会は茶番ではないか。

文化部長：その日程では厳しいと思っている。できるだけ早い時期にご理解いただく機会を設けたいと思っている。十字の日程が定まっていなかったが、先ほど幸でもう一度という話もあったので、これから連合会長さんともご相談して、機会を設けたいと思っている。強行したいとは思っていないが、あまり実施設計の着手が遅れることは好ましくないと思っている。

市民：実施設計が遅れることは好ましくないから、ほかの人は目をつぶってくれということか。

文化部長：いつまで遅らせるということをお約束できないということである。その前にご説明はしたいと思っている。直ちに日程はご説明できないので、改めて日程を取らせていただきたいと思いますと思っている。

市民：文化部長が全責任を負うということなら解散する。

文化部長：もちろん、私は最初からそのつもりでこの仕事をやっている。

市民：税金についても全部弁済するのか。

文化部長：それほどの能力があるかどうかかわからないが、我々はそのような覚悟でやらせていただいている。残念ながら全ての事項についてはご理解いただけなかったので、それらについてはご理解いただく場面を設けたいと思っている。しかしながらそれをもって、いつまで実施設計を延ばすということは別の相談だと認識している。

市民：本日の議事録を公開してほしい。

文化部長：わかりました。このような形で行っているものについては、皆さまにお知らせしていく義務がある。そういった意味では様々なところに報告する義務もある。さらに、皆様方にご理解いただけるような準備をして臨んでいきたいと思っている。改めて皆様方にご説明する機会を設けたいと思っているのでどうぞお願いいたします。本日はありがとうございました。